慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ビジネス日本語における副詞の研究
Sub Title	
Author	呉, 雨(Go, U)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2023
Jtitle	日本語と日本語教育 No.51 (2023. 3) ,p.151- 164
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	博士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20230300-0151

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』51：151–164（2023.3）

ビジネス日本語における副詞の研究

呉　　雨

1. はじめに

筆者は 2016 年 4 月から 2018 年 3 月まで、慶應義塾大学文学研究科、国文学専攻日本語教育分野の修士課程に在籍した。修士課程を修了後、國學院大學の博士課程に進学し、2021 年 3 月に博士学位を取得した。本稿は博士論文の概要である。

2. 論文の課題

外国人学習者にとっては、副詞は日常の会話、文章を理解する際に重要な役割を担う。また、将来の職場では、副詞の意味と用法をつかめず、文脈の理解に困難が生じる可能性がある。ビジネス場面で用いられる日本語の副詞の習得は非常に重要な課題である。外国人学習者に対するビジネス日本語教育を行う際にも、副詞の使用について教える必要がある。ビジネス日本語における副詞を教える前に、あらかじめビジネス日本語における副詞の使用状況と特徴を解明しなければならない。

そこで、本論文は従来の「情態、程度、陳述」の副詞の 3 分類に加え、工藤浩（2016）の「叙法、とりたて、評価」という陳述副詞の分類方法に従い、ビジネス日本語の文章語資料と会話資料で使用される副詞を分類し、特徴的な副詞の使用状況を考察する。また、ビジネス日本語における副詞の分析を行い、日中対照研究、中国人学習者の学習状況という視点でビジネス日本語の副詞を考察し、日中のビジネス文書の比較、中国人学習者による副詞の使用についても検討する。本論文は、ビジネス日本語の視点か

ら副詞を考察したものである。

3. 論文の構成

本論文は序章、ビジネス日本語の文章語資料における副詞を扱った第Ⅰ部、ビジネス日本語の会話資料における副詞を扱った第Ⅱ部、対照研究、学習状況の視点から見たビジネス日本語の副詞を扱った第Ⅲ部、終章によって構成される。以下は本論文の章立てである。

序章　本研究の目的と先行研究

第Ⅰ部　ビジネス日本語の文章語資料における副詞

第 1 章 「ビジネス文書における副詞による配慮表現の一考察」

第 2 章 「企業広報誌における副詞の使用実態」

第 3 章 「法律の条文における副詞の使用実態：ビジネスに関わる法律を中心に」

第Ⅱ部　ビジネス日本語の会話資料における副詞

第 4 章 「職場の会話における副詞の使用：職場談話コーパスを調査資料として」

第 5 章 「ビジネス場面の会話における副詞の使用実態：テレビドラマ『わたし、定時で帰ります。』を調査資料として」

第 6 章 「国会会議録における副詞の使用実態」

第Ⅲ部　対照研究、学習状況の視点から見たビジネス日本語の副詞

第 7 章 「日中のビジネス文書における副詞の対照研究」

第 8 章 「中国人日本語学習者による依頼場面における副詞の使用：依頼メールを調査資料に」

終章　まとめと今後の課題

4. 論文の概要

4.1 序章

序章では、ビジネス日本語における副詞を研究する必要性を以下のように示した。副詞は日常と職場の日本語使用において重要な役割を果たし、外国人学習者に対するビジネス場面で用いられる副詞の指導が必要とされる。ビジネス日本語における副詞を教える前に、ビジネス日本語における副詞の使用状況と特徴を究明する必要がある。

また、序章では、副詞の研究史をまとめ、これまでの先行研究における副詞の分類方法を概観し、本論文における副詞の分類方法を説明した。本論文は山田孝雄（1936）由来の 3 分類（情態、程度、陳述）に加え、工藤浩（2016）による「叙法、とりたて、評価」という陳述副詞の分類方法に従う。本論文で基準にした副詞の分類を図 1 に示す。

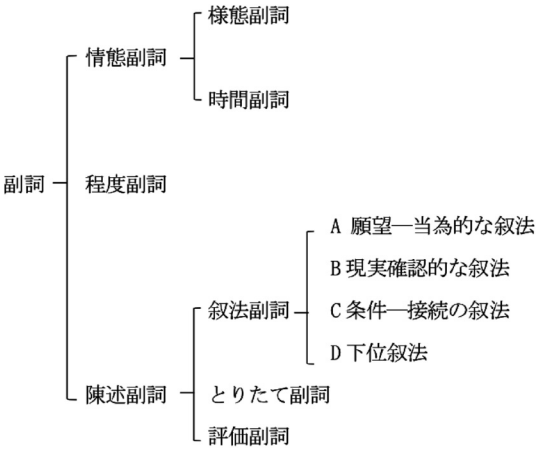

図 1　本論文における副詞の分類

4.2　ビジネス日本語の文章語資料における副詞（第Ⅰ部）

第Ⅰ部では、ビジネス日本語の文章語資料における副詞を調査し、特徴的な副詞について考察した。

まず、第1章では、配慮表現の視点でビジネス日本語の言語行動の一つであるビジネス文書における副詞の使用状況を考察した。副詞による配慮表現は、ビジネス活動に伴う日本語表現において企業間の関係構築、業務の遂行に重要な役割を果たす。ビジネス文書の言語状況を分析するに最も可能な資料として、ビジネス文書の文例集を調査資料にした。

10冊のビジネス文書マニュアル本と教科書の文例集を調査した結果[1]、この10冊の資料で使用される副詞の異なり語数は159語、延べ語数は3156語であった。副詞の分類別に見ると、異なり語数、延べ語数ともに時間副詞が最も多かった。新聞、雑誌、教科書の他分野の文章語資料と比べて、ビジネス文書では相手を配慮する機能を持つ「ますます」「誠に」の使用が特徴的であり、「もう」「一番」のような口語的な副詞は現れにくいことを明らかにした。

また、配慮表現の視点からビジネス文書で使用される副詞を分析した結果、「ますます（益々）[2]」のような副詞は、「拝啓　時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます」のように、ビジネス文書の前文に多く見られ、挨拶文などの慣用的表現として用いられていた。

「何卒（何とぞ・なにとぞ）」「どうぞ」「ぜひ（是非）」などは相手の意見、来場などを求める場面で出現し、相手に依頼する意味を示す共通の用法を持つ。抽出した例には「どうぞ」「ぜひ」の相手に対して行為を勧めるや強い願望を伝えるような依頼の意味と異なる用例が見られた。

主文に現れる「誠に（まことに）」「大変」は、相手のことを配慮する際の改まった表現として多用されていた。類義の「本当にありがとうございました」「とても仕事がやりやすい」と比べて、「誠に（まことに）」「大変」を用いた例が圧倒的に多かった。これはビジネス文書の文体上の特徴に関

係するためであると考えられる。

「取り急ぎ（とり急ぎ）」「まずは」は「取り急ぎ、要件のみ申し上げます」「まずは、書中をもちましてお誘い申し上げます」のように、末文に出現し、挨拶などを省略して、文書の締めくくりを表し、相手への配慮の気持ちを示す副詞であることを明らかにした。

第 2 章では、ビジネス日本語の研究の試みとして、企業の情報を伝達する、ビジネスコミュニケーションの機能を持つ企業広報誌における副詞を考察した。

具体的には建築、電気、情報通信、運輸、卸売・小売、金融・保険、医療・福祉の 8 つの業界の企業の 2019 年計 1 年間の企業広報誌を調査資料とした。調査の結果、8 つの業界の企業広報誌における副詞の異なり語数は 228 語であり、延べ語数は 1969 語であった。

また、企業広報誌においては、①様態副詞の異なり語数が最も多く、種類が豊富であること、②程度副詞の延べ語数が上位にあり、使用頻度が高いこと、③企業別に見ると、建築、電気、情報通信、運輸、卸売・小売、金融・保険、医療・福祉の業界の企業広報誌では、それぞれ「かつて」「より」「大変」「たとえば」「ぜひ」「約」「そう」が多く使用されていることを明らかにした。

ビジネス文書（第 1 章）と比較した結果、企業広報誌における様態副詞は、語の種類と使用頻度が圧倒的に多かった。また、ビジネス文書と比べて、企業広報誌では「こう」「そう」「しっかり」「とても」のような話し言葉的な副詞が出現しやすいことも明らかにした。その原因として、読み手の顧客や住民に親近感を与えるように、企業広報誌では擬音語・擬態語をはじめとした様態副詞、話し言葉的な副詞が多用されることが考えられる。

次に、企業広報誌における特徴的な副詞を考察した。概数を表す副詞として、「約」「ほぼ」「およそ」が見られる。そのうち、「約」と「およそ」

は概数を表す際に近い性格を持つが、「約」のほうは用例数が圧倒的に多く、年数、人数、字数のような数値、「半数」のような数値に関わるものと共起しやすい。「ほぼ」は、「ゼロ」「すべて」のような極限の意味を含む文脈で出現する傾向が見られた。

「ゆったり」は「座る」に関わる表現と共起し、座り心地の良い様子を表し、運輸業や椅子を扱う小売業の企業広報誌での使用が特徴的であった。また、距離の近い意味を表す「すぐ」は、「そば」のような位置を表す名詞と後接しやすく、時間副詞の「すぐ」より「すぐに」の用例数が比較的多いことを明らかにした。

第 3 章では、ビジネス日本語の文章語資料としてビジネスに関わる法律の条文を扱った。来日外国人留学生が将来、労働者としてビジネスに関わる法律を読む場面も想定され、法律の語彙と日本語教育との隔たりを埋めるにも、ビジネス日本語の法律の条文における副詞を考察する必要があると考えられる。

ビジネスに関わる法律として、会社法、商法、労働法の条文を選定し、それらの条文における副詞の使用を調査した。その結果、各法律の条文で出現する副詞の異なり語数は 21 語、延べ語数は 602 語であった。会社法、商法、労働法の条文のいずれにおいても最も多く現れるのは「なお（仍）」であった。

いずれの法律の条文では、「なお（仍）」「いつでも」「現に」「既に（すでに）」「あらかじめ」「更に（さらに）」が使用されるが、「どう」「初めて」「まだ」は会社法のみに使用され、「自ら」は商法のみに使用され、「当分」「一層」「まず（まづ）」「あまねく」は労働法のみに使用されている。

使用される全体の語彙を副詞の分類で見ると、時間副詞が異なり語数全体の 52.4％、延べ語数全体の 80.7％も占めており、最も多く使用されている。また、評価副詞のような感情を表す副詞は、法律の条文で出現しにくい傾向が見られた。

法律の条文における副詞をビジネス文書（第 1 章）、新聞、雑誌、教科書の文章語資料で使用される副詞と比較した。「こう」「いろいろ」「まだ」「ちょっと」「いちばん」のような口語的な副詞、「大変」「何とぞ」「誠に」のような読み手に対して配慮を示す副詞が法律の条文では出現しにくいことがわかった。

法令用語として特有の意味合いを持つ副詞を分析した。法律の条文では、「なお（仍）」は「なお従前の例による」、「当分」は「当分の間」の形で多く見られた。「現に」は「すでに」と区別する必要があり、「直ちに」は「速やかに」などよりも即時性が強い。「あらかじめ」は「事前に」を表す場合と、当為表現と共起する場合がある。「あまねく」と「もとより」の用例は少なかったが、いずれも硬い文章語として法律の条文における特徴的な副詞であった。

外国人留学生にとってはビジネスに関わる法律以外に、在留資格に関わる「出入国管理および難民認定法（略して、入管法）」なども在日の生活に関連する法律であり、それらの法律の条文における副詞の検討を今後の課題としたい。

4.3　ビジネス日本語の会話資料における副詞（第Ⅱ部）

ビジネス日本語を使用する場面は、ビジネス文書などで文章語を用いる場面と、職場の会話をはじめ口語を用いる場面がある。次に、第Ⅱ部では話し言葉の視点から、ビジネス日本語における副詞の使用を考察した。ビジネス日本語の会話資料における副詞の使用実態について調査し、各資料における特徴的な副詞について分析した。

第 4 章では、「職場談話コーパス」（『現日研・職場談話コーパス』（中納言版））を利用し、職場談話で使用される副詞の調査を行った。その結果、使用される副詞の異なり語数は 301 語、延べ語数は 6194 語であった。そのうち、様態副詞の異なり語数が最も多く、叙法副詞の延べ語数は最も多かった。その原因として、「ばっと」「ちゃんと」「はっきり」などの擬音

語・擬態語が多くあり、様態副詞の語彙の種類が他の分類より豊富であること、「やっぱり」「たとえば（例えば）」「たぶん（多分）」などの用例数が多く、叙法副詞の用例数も多くなったことが考えられる。

「職場談話コーパス」における副詞は、文体としては、口語的なものが中心であり、ビジネス文書や新聞、雑誌などにおける硬い表現と明らかに異なることがわかった。副詞の重複、倒置などの表現が多く見られ、擬音語・擬態語の副詞、方言の副詞の使用も特徴的であった。

また、ビジネス文書における副詞との比較を行った。「職場談話コーパス」では、①相手を勧誘する際に「ぜひ」は「いらしてください」のような口語的な表現と共起する、②「どうぞ」は依頼の場面以外に、相手の行動に対して承諾する場面でも使用される、③「早速」は先方以外に、自分たちの行動に関わる場合でも用いられる、④「大変」は相手を配慮する意味ではなく、単なる程度を表す用法もあるというビジネス文書では見られない特徴がある。

第 5 章では、ビジネス日本語の会話資料として、ビジネス場面を反映するテレビドラマを用いて、使用される副詞を調査した。テレビドラマは有用な日本語教育教材であり、最近のビジネス場面を描いたドラマは日本のビジネス情報や職場の日本語使用を把握するのに最適な教材である。

本章では、ビジネス場面を描いたテレビドラマ『わたし、定時で帰ります。』を選定し、仕事に関わる発話場面を調査対象とした。それらの場面に見られる副詞を抽出して集計した。このドラマでは職場の談話場面で使用される副詞の異なり語数は 220 語、延べ語数は 1515 語であった。使用される様態副詞の異なり語数が多く、バリエーションが豊富であるが、延べ語数から見ると叙法副詞と時間副詞が多く用いられることを明らかにした。

本章の調査資料における副詞を「職場談話コーパス」（第 4 章）、日常談話における副詞と比較した。本章の調査資料は小説による架空の話を実写

化したドラマであるため、「職場談話コーパス」における副詞とは若干異なる部分がある。日常談話と比べて、テレビドラマが反映する職場談話では「よろしく」のような人間関係を重視する副詞の使用が特徴的であり、特に初対面の挨拶では、「よろしく」は相手と良好な関係を保つ願望を表す役割を果たす。また、指示語由来の「こう」「そう」「ああ」「どう」の多用、内心情報処理を表示する「まあ」は雰囲気を和らげる機能を持つことを明らかにした。多義性を持つ「よく」は程度副詞としての用法が基本的であり、中には「わかる」と共起する例が多かった。

第 6 章では、会議における副詞の使用実態を明らかにしたいが、企業、団体などの会議録は多くの場合非公開とされているため、公の会議録である国会会議録を利用し、国会会議のような公的場面での発話における副詞を考察した。

使用したのは、全文検索システム『ひまわり』の『国会会議録』パッケージ（本会議版）におけるより新しい 2012 年の 1 年分のデータであった。調査した結果、使用される副詞の異なり語数は 282 語、延べ語数は 7167 語であった。また、①国会会議録では様態副詞の異なり語数が多く、バリエーションが豊富であること、②延べ語数が多いのは時間副詞であるということが明らかになった。

国会会議録（2012）で使用される副詞を、ビジネス文書（第 1 章）、ビジネス関係の法律の条文（第 3 章）、「職場談話コーパス」（第 4 章）、ビジネス場面を反映するテレビドラマ（第 5 章）における副詞と比較した。国会会議録（2012）で使用される副詞のうち、「一層」「既に」「改めて」「まずは」は書き言葉的な副詞であり、ビジネス文書、法律の条文にも見られた。国会会議録（2012）では、「そう」「本当に」などのような「職場談話コーパス」とテレビドラマでも使用される話し言葉的な副詞も上位に出現した。

また、国会会議録（2012）においては、「直ちに」は当為表現「べきだ」

と共起し、「決して」「到底」「断じて」は「許してはならない」のような「不許可」表現と共起する傾向が見られた。

4.4 ビジネス日本語とビジネス中国語における副詞の対照、および中国人学習者による副詞の使用（第Ⅲ部）

第Ⅲ部では、日中対照研究、中国人学習者の学習状況の視点から、ビジネス日本語における副詞について考察した。

第 7 章では、第 1 章で行った日本語のビジネス文書における副詞の調査と比較し、日中のビジネス文書における副詞を対照した。日中の品詞体系は異なっており、特に副詞の下位分類は互いに対応しないため、ビジネス文書における副詞の日中対照研究が難しい。

5 冊の中国語のビジネス文書の文例を考察した結果、時間を表す副詞が最も多く、「否定副詞」の “没有”、「可能性副詞」の “是否” のような中国語特有の副詞が日本語の副詞とは対応せず、日中副詞の対照研究が困難であることを再確認した。日中の文化の違いにより、事案を伝える際に相手への配慮の表し方は異なるが、日中のビジネス文書では話し言葉的な副詞が使用されやすい点は共通していることを明らかにした。

第 8 章では、ビジネス日本語と日本語教育の双方に関わるビジネス文書と関連性の高い依頼メールに着目し、中国人学習者による副詞の使用状況について考察を加えた。

『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』（I-JAS）における依頼メールの作文データを資料として、日本語母語話者のデータと比べながら、中国人学習者による副詞の使用の特徴を明らかにした。

調査の結果、中国人学習者は「様態副詞」「時間副詞」「とりたて副詞」を多く使用するのに対し、日本語母語話者は「叙法副詞」の使用が多いことがわかった。具体的には、中国人学習者は「とても」「ちょっと」「どうも」のような口語的副詞を多く使用していた。また、「まだ」を「また」にし、「必ず」を「きっと」にし、「どうぞ」を「どうも」にするという誤用

が見られた。

日本語で依頼メールを書く際に、副詞の意味用法、文体上の副詞の使い分け、副詞による相手への配慮など、注意すべき点が多くある。それに対する有効な指導法については今後の課題として検討したい。

4.5 終章

終章では、本論文全体をまとめ、今後の課題を述べた。

調査資料全体を見ると、「職場談話コーパス」における副詞の異なり語数（301 語）、国会会議録における副詞の延べ語数（7167 語）が最も多かった。

また、各資料を比較すると、企業広報誌は文章語資料であるが、会話資料のように、様態副詞のバリエーションが多いこと、会話資料の国会会議録は文書語資料のように、時間副詞の使用頻度が高いことがわかった。

「職場談話コーパス」とドラマでは話し言葉的な副詞が多く見られ、ビジネス文書、法律の条文では書き言葉的な副詞が多く見られたが、国会会議録、企業広報誌における副詞は話し言葉と書き言葉の中間的性格を持っているという文体上の違いが見られた。

表 1　各資料における副詞の改まり度

改まり度	文章語資料	会話資料
+2	法律の条文のような非常に改まった文章表現 例：なお、現に、直ちに	—
+1	ビジネス文書のような簡明的で曖昧さを避けたやや改まった文章表現 例：ますます、誠に、よろしく	国会会議録のような公的な場面でのやや改まった発言 例：さらに、まず、どう
0	企業広報誌のような企業を宣伝し、読者に親近感を与える文章表現 例：約、より、ぜひ	職場における改まった会話 例：そう、まあ、ちょっと
−1	（家族、親しい友人友人への手紙などややくだけた文章表現）	（知人とのややくだけた日常会話）
−2	—	（家族、親しい友人との非常にくだけた会話）

改まり度[3]（表1に示す）は法律の条文（例：「なお、現に、直ちに」）、ビジネス文書（例：「ますます、誠に、よろしく」）、企業広報誌（例：「約、より、ぜひ」）の順に低下し、「職場談話コーパス」とビジネス場面を反映するドラマにおける会話（例：「そう、まあ、ちょっと」）と比べて、国会会議録の発言（例：「さらに、まず、どう」）の改まり度が比較的高いことを明らかにした。

本研究によって、ビジネス日本語の文章語資料と会話資料における副詞の文体的特徴、公的・私的場面による改まり度が異なること、ビジネス言語資料における特徴的な副詞の使用についてなど、明らかにできた部分が多い。また、ビジネス日本語の副詞を日中対照研究、中国人学習者の学習状況の視点から考察したことは本研究の特徴であると考える。

今後の副詞の研究、ビジネス日本語の研究においては、副詞とビジネス日本語の関わりに着目したといった複数の分野にまたがる視点が重要である。本研究では、ビジネス日本語における副詞の研究が多言語対照研究、ビジネス日本語教育研究に貢献できる可能性を示した。個々の副詞の考察をさらに深めるべき点もあるが、文章語、会話資料における副詞の使用実態を明らかにしたことは、今後の研究につながるものであると考えられる。副詞の個別の考察、副詞の指導への提案を今後の課題としたい。

追記：2020年9月に國學院大學文学研究科に博士学位論文「ビジネス日本語における副詞」を提出した。國學院大學課程博士論文の出版助成を受け、2021年10月に『ビジネス日本語における副詞』（郵研社）を刊行した。

注

1 本研究において、副詞の抽出は、主に国立国語研究所の形態素解析システム「Web 茶まめ」（MeCab）を利用した。副詞の判別は小学館国語辞典編集部編（2001）『日本国語大辞典』（第二版）を参照した。

2　括弧内はその副詞の他の表記である。以下同様。
3　改まり度については、川村よし子（1994）を参照。

主な参考文献

生田少子（1997）「ポライトネスの理論」特集「ポライトネスの言語学：敬語行動の今を探る」『言語』26(6) 大修館書店 pp.66–71
石黒圭（2004）「中国語母語話者の作文に見られる漢語副詞の使い方の特徴」『一橋大学留学生センター紀要』7 一橋大学留学生センター pp.3–13
岩本秀明・野村浩郷（1991）「法律文の自然言語処理について」情報処理学会研究報告『自然言語処理』37 情報処理学会 pp.7–14
川村よし子（1994）「上級クラスにおける表現の指導：「改まり度」に応じたことばの使い分け」『講座日本語教育』29 早稲田大学日本語研究教育センター pp.120–133
工藤浩（2016）『副詞と文』ひつじ書房
呉雨（2019）「ビジネス文書における副詞による配慮表現の一考察」『國學院大學大學院紀要. 文学研究科』50 國學院大學大學院文学研究科 pp.71–90
国立国語研究所（1962）国立国語研究所報告 21『現代雑誌九十種の用語用字　第 1 分冊』秀英出版
小林典子（1988）「外国人日本語学習者による副用語の誤用：誤用例の分類の試み」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』3 筑波大学留学生教育センター pp.29–47
斎藤達哉（2012）「市区町村広報紙の副詞と用字」『専修人文論集』90 専修大学学会 pp.247–271
佐野彩子（2020）「第 7 章 副詞の使用実態とその問題点」石黒圭編『ビジネス文書の応用言語学的研究：クラウドソーシングを用いたビジネス日本語の多角的分析』ひつじ書房 pp.121–136
時衛国（2009）『中国語と日本語における程度副詞の対照研究』風間書房
張麟声・渡辺実（1983）「日中副詞の比較―ムード副詞を中心に―」渡辺実編『副用語の研究』明治書院 pp.453–473
中田智子（1991）「談話における副詞のはたらき」『副詞の意味と用法（日本語教育指導参考書 19）』 国立国語研究所 pp.85–107
長野馨ほか（1992）「文末表現から見た法律文の制限言語モデルについて」情報処理学会研究報告『自然言語処理』NL-92-89 情報処理学会 pp.75–82
野田尚史ほか編（2014）『日本語の配慮表現の多様性：歴史的変化と地理的・社会的変異』くろしお出版
飛田良文ほか編（2007）『日本語学研究事典』明治書院
彭飛（2004）『日本語の「配慮表現」に関する研究―中国語との比較研究における諸問題―』和泉書院
前川喜久雄（2008）「話し言葉と書き言葉」『日本語学』27(5) 明治書院 pp.23–33
益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法・改訂版』くろしお出版
松田健次郎編（2008）『国会会議録を使った日本語研究』ひつじ書房
三島万里（2018）『企業広報誌の世界：広報誌から企業コミュニケーションを読み解く』日外アソシエーツ

森山卓郎 (2003)「話し言葉と書き言葉を考えるための文法研究用語・12」『国文学 解釈と教材の研究』48(12) 学燈社 pp.15–22
諸星美智直（1986）「国語資料としての帝国議会議事速記録―当為表現の場合―」『國學院大學大学院紀要．文学研究科』17 國學院大學大學院文学研究科 pp.217–251
山岡政紀ほか（2010）『コミュニケーションと配慮表現：日本語語用論入門』明治書院
山田孝雄（1936）『日本文法学概論』宝文館

経歴

呉　雨（ゴ　ウ）
中国甘粛省出身
2015 年 7 月に大連海洋大学（中国）外国語学部日本語学科卒業
2018 年 3 月に慶應義塾大学大学院文学研究科国文学専攻日本語教育学分野修士課程修了
2021 年 3 月に國學院大學大学院文学研究科文学専攻日本語教育コースより、博士（文学）の学位を取得し、博士後期課程修了
博士学位論文題目は「ビジネス日本語における副詞の研究」
2021 年 9 月に重慶交通大学（中国）外国語学部日本語専任講師に就任、現在に至る。